

よいことのために  
 手をとりあおう

**2025-2026**  
**No.1799**  
**2025.8.7**

会長：茂木清七 幹事：小澤博之  
 会員数：49(内3名特別会員) 会場出席：26 欠席：23  
 出席率：56.52% 前回出席率：84.78%  
 点鐘：茂木清七 会長 司会：本山佳宏 副S A A  
 国歌斉唱  
 ロータリーソング：四つのテスト (ソングリーダー：金井康二)  
 例会場：ホテルベラヴィータ 3F 12:30～

ロータリーを語ろう

## お客様

利根沼田歴史散歩の会 高山 <sup>まさし</sup> 正 様

## 会長の時間

茂木清七 会長



皆さん、こんにちは。沼田まつりも無事終了して沼田で一番暑い夏が終わりました。

沼田まつりは毎年8月の3・4・5日と決まっておりますが、今年は日・月・火曜の3日間でしたが、来年からしばらくは平日開催になります。2029年に金・土・日曜になりますが、それまでは全ての日程が平日になります。人口減少が加速する中、沼田まつりの運営スタッフも高齢化しています。伝統のある山車では、演奏する子どもが少なく、又、山車の引手も不足している状況です。以前と比べると沼田市の夏の気温も3～5度高くなっています。熱中症の危険性も高くなり、まつりの安全な進行を考えますと日程を変更する必要があると考えます。沼田まつり実行委員会の会議では、幾度となく日程変更の議論はされているようですが、沼田まつり(おぎょん)は昔から8月の3・4・5日と決まっているという意見が強く、なかなか歩み寄れない状況です。沼田市へ多くのお客様にお越し頂き、沼田市のアピールや活性化を図るのであれば、日程変更も検討しなければならぬと感じます。

また沼田まつりの天狗みこしですが、これは女性のみで担ぐ大変めずらしいおみこしです。この天狗みこしも市内外から担ぎ手が来られ、まだ正式に発表しておりませんが120人の担ぎ手が集まり、その内の20人くらいが外国の方だったようです。

現在、沼田市の外国人登録者は1,000人を超えています。本日の新聞にも出ていましたが、日本の人口は昨年と比較して91万人減少し、群馬県においては日本人が2万人減少し、外国人は9千人増えたそうです。今後このような現象はしばらく続くと思われます。減少は日本の全地域で進んでいて、唯一人口が増えているのが東京都です。この人口一極集中を国の施策によって変えて頂きたいと思えます。

本日は、沼田まつりと人口減少についてお話しさせて頂きました。

以上で会長の時間とさせていただきます。

## 幹事報告

小澤博之 幹事



- ①来週8月14日はお盆の為、休会となります。
- ②9月27日(土)地区チャリティゴルフ大会の案内が届いています。参加希望の方は、幹事までご連絡下さい。
- ③沼田RCから例会変更のお知らせが届いております。メーク等検討されている方は幹事までご連絡下さい。



ソングリーダー 金井康二 会員

## 納涼会の案内

関美津男 委員長



～涼やかに奏でるタベ 篠笛とピアノの出会い～  
 8月29日(金) 18時30分～ 於：ソナタリユ  
 参加費：3,000円 対象者：会員のみ(会場の都合上)



茂木 清七・小澤 博之

- ①本日は高山先生の卓話、楽しみにしています。
- ②私（茂木）、議会の為早退させていただきます。

林 秀彦

本日都合により早退します。

宮田 美行

- ①いつも利根沼田の歴史に関する貴重なお話をして下さる高山先生、本日も宜しくお願い致します。
- ②本日都合により早退します。すみません。

本山 佳宏・原澤 ふじ子

高山正先生の卓話を記念して。宜しくお願い致します。

### 40周年記念事業について



小曾根一雄記念事業委員長より、沼田中央RC40周年記念事業のアイデア募集について説明がありました。



### 本日の卓話



利根沼田歴史散歩の会 高山 正 様

#### 『幻の沼田ダム その残した影響』

戦後すぐの昭和22年、23年、24年と連続で関東地方全域を台風が襲い、川の堤防が決壊し広い地域を浸水、水没させる大災害をもたらした。この原因は、戦時中の山の木の無計画な伐採で山の保水能力が失われていたためだった。

政府は早急な治水対策の必要に迫られ、利根川本流をせき止める沼田ダム建設の計画案が浮上し、昭和27年に内閣で閣議決定され、翌28年8月に新聞発表された。

この計画を新聞やラジオで初めて知った地元住民は、各村で集会を行い、耕作地など農業への多大なる影響と地元農家の将来を考慮しない案に、断固反対することとなった。

この反対運動によりダム建設の話は少し収まり、治水対策として、利根川水系(昭和30年須田貝ダム、昭和32年藤原ダム、昭和34年相俣ダム、昭和42年八木沢ダム)と片品川水系(昭和40年園原ダム)に相次いでダムが建設され、沼田ダムは「幻のダム」と呼ばれていった。そして東京の水不足問題も工場の分散、家庭での節水対策などの社会情勢により変化していった。

しかしダム建設が発表されてからの20年余りが地元住民に残したものは、長期間の生活上の不安や市政政策への影響など計り知れないほど大きい。

また、ダム建設による水没予定地を通る国鉄上越線の付け替えルートをなぞるように関越自動車道が整備され、新沼田駅の予定地近くに沼田インターチェンジが建設された。前橋I.C～湯沢I.C間は、昭和60年開通だが、計画当時は沼田ダム構想が消えておらず、ダム予定地を避ける必要があった。現在の沼田駅周辺の道路が細く複雑に入り組むのも、ダム計画による整備の遅れである。ダム水没予定地という状態の為、道路はあまり整備されず田畑への耕作道のまま簡易的な舗装がなされ、その両脇には住宅が建ち並んでしまい、緊急車両も入っていけないような町並みとなってしまった。

幻の沼田ダム構想が残した影響が思い知らされる。

